

日本学術会議 史学委員会 ジェンダー史学の知見と方法の社会実装分科会

第 26 期 第 3 回会議 議事要旨

日時：2024 年 11 月 24 日（日）10:00～

場所：オンライン（zoom）にて開催

出席者：長志珠絵・京樂真帆子・栗田禎子・久留島典子・小玉亮子・高橋裕子・芳賀満・

姫岡とし子・平野千果子・星乃治彦・松本直子・三成美保・來田享子（13 名）

1. 三成会員報告「ジェンダー視点から問う高校歴史教育の課題

ー「歴史総合」で何をどう教えるかー」

報告の後、意見交換が行われた。

<意見交換の主な論点>

- 植民地主義・オリエンタリズムの視点を含める重要性
- 男性史なき世界史（例：徴兵制）
- 「歴史総合」科目の課題としての前近代史からの接続
- 教科書の記述内容（たとえばナポレオン諸法典—当事者国の歴史教育ではどのように扱われているか）
- 「歴史教育のジェンダー主流化」の必要性（見解を含める）
- 歴史教育における人権に関する学びの戦前／戦後の分断—扱われる内容の偏り

「大日本帝国憲法から日本国憲法へ」という歴史に重点がおかれ、民法—市民社会の

法に残る家父長制への批判が欠落することの意味

皇室典範の変遷とジェンダー視点での歴史の学び

- SNS との関わり：情報教育との融合（何を検索結果として受け取るか）
- ジェンダー、フェミニズムへの学生のアレルギー
- 「平等」幻想が壊れることへの学習者の不安←アレルギーは教育によって変える
- 交差性という視点を育む歴史教育：「点（コラム）」ではなく全体像に含みこむ必要性
- 教科書のなかの男女比率 世界史 B 段階での 106 件人物項目中女性は 15 件 1 割→変化？
- 見解には 24th になかった論点を積極的に加えていく
- 交差性とそのバランスの勘案を

2. 京楽会員報告「教育現場と地方自治体発男女共同参画副読本・啓発冊子

ー教科書記述を補佐・補完するためにー

報告の後、意見交換が行われた。

<意見交換の主な論点>

- 日本史・世界史の探究が選ばれない現状ー通史的歴史理解の最後の砦ー中学生
- 研修/教育養成という広げ方ー活用率の低さとの関係
- 公共科目との接続、他の美術・音楽・保健体育との関係ー他分野との比較繋ぎ合わせ
- 地域の歴史展示ー可能性とリスク（男性ばかりピックアップされた愛知の事例と是正
- 文科の男女共修 2011ー地域教育委員会による取り組みの温度差

3. 次回の分科会（3月頃開催を目途）

見解の執筆を視野にいれながら第3回分科会における「『歴史総合』のその後－教育内容の変化」のテーマでの議論に続き、以下のテーマでの議論を進める。

- （1）歴史総合教育はどのように実践されているのか
- （2）生涯教育場面における展開－歴史展示

以上